

東大型④ 本文全体を踏まえて論じる

名前：

点数： / 16点

日付：

見つける → 指さす → 言いかえる → つなぐ → 書く — 手順は基礎編と同じ。素材の密度だけが上がる。

この一枚の技 「本文全体を踏まえて」は、**譲歩（たしかに）＋転換（しかし）＋結論（往復・提案）**の全部品を一つの文章に統合する指示。段落ごとの役割ラベルを先に貼り、部品を落とさず120字へ。

わかりやすい説明は、たしかに理解の入口を開いてくれる。難しいものを前にした人を、まず立ち止まらせないためには、単純化の力が要る。しかし、わかりやすさは多くの場合、例外を切り捨て、都合のよい一本の筋書きに整えることで成り立っている。「わかった」という心地よさに安住するとき、私たちはそこで考えることを終えてしまう。大切なのは、わかりやすさを入口として使いながら、切り捨てられたものへ問いを戻す往復なのである。

問1 筆者の考える「わかりやすさ」との付き合い方を、その利点と危うさの両方に触れながら、120字以内で説明せよ。 16点／目標16分

設計のヒント：部品は四つ：①利点（理解の入口）②成立の仕組み（例外の切り捨て・単純化）③危うさ（考えを終える）④結論（入口として使い、切り捨てられたものへ問いを戻す往復）。

制作：日本国語塾TOP（数強塾グループ／代表 藤原進之介） 制作担当：中村祥・山下翔平 ※「しょうちゃん式」は二人の“しょう”にちなんだ名前です
本紙の文章・設問・模範解答・解説はすべて書き下ろしのオリジナルです。実在の入試問題の転載・改変ではありません。個人学習および学校・塾での授業利用（受講者への印刷配布を含む）可。データの再配布・改変・販売・転載は禁止。© 2026 数強塾グループ 日本国語塾TOP

問1 模範解答（115字前後）

わかりやすさは理解の入口を開く利点を持つが、例外を切り捨てて単純な筋書きに整えることで成り立つため、わかった感覚に安住すれば思考が止まる。ゆえに、それを入口として使いつつ、切り捨てられたものへ問いを戻す往復を続けるべきだ、という付き合い方。

要素	採点基準	配点
利点	理解の入口を開く（譲歩の回収）	3点
仕組み	例外の切り捨て・単純化によって成り立つ	4点
危うさ	わかった感覚への安住が思考を止める	4点
結論	入口として使い、切り捨てたものへ問いを戻す往復	5点

添削ワンポイント（よくある失点）

最大配点は結論の「往復」。「わかりやすさに頼りすぎないようにする」のような一般語のまとめは、本文の具体的な提案（問いを戻す往復）を失い、5点を丸ごと落とす。譲歩を落とす・一般語に逃げる——基礎編で潰してきた二大失点が、120字ではいっぺんに試される。

自分の答案が何点が知りたい方は、答案の写真を日本国語塾TOPまでお送りください。要素ごとに採点し、失点の原因を手順のこたばで診断してお返しします。（無料相談：nihonkokugojuku.com ※URLは公開時に確定）